

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0171500499		
法人名	社会福祉法人七飯町社会福祉協議会		
事業所名	七飯町グループホームひだまりの家		
所在地	北海道亀田郡七飯町字中野 2 1 0 - 2 (電 話) 0138-66-3353		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年10月1日

## 【情報提供票より】 (平成 20年 6月 6日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 16.8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り	(併設型)
	2 階建ての	2	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	20,000~30,000 円	その他の経費(月額)	22,000~30,000 円	
敷 金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要 ( 6月 6日 現在 )

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名	
要介護 1	3 名	要介護 2	5 名			
要介護 3	6 名	要介護 4	2 名			
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名			
年齢	平均	82 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山医院、なるかわ病院、西谷整形外科、ななえ山本歯科
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

函館市にほど近い、畑が広がる農業地帯に位置し、同法人の他事業所と隣接している。すぐ近くに町営の「アップル温泉」があり、月に1回程度利用しており、利用者の憩いの一つとなっている。設立より8年目を迎え、外部評価にも継続して取り組み、年々その成果をあげている。昨年度に1ユニットを増やし、2ユニットの体制を固めつつある。安定した運営の中にも新しい取り組みを行っており、高い意識をもってさらなる向上をめざしている事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回、特段の改善点はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	とりまとめは管理者が行っているが、職員一同で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	昨年度は、職員の異動もあり、1回のみ開催であったが、運営会議の重要性を認識している。今年7月には、七飯町にある5事業所合同の運営推進会議を、初めて開催する予定である。会議開催時には、利用者や家族も参加している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	玄関入り口に、苦情・相談受付のポストを設置している。ほとんどの家族が来訪しているため、そのつど家族と話し合う機会を持つとともに、気軽に話し合える雰囲気作りに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	近所に住宅がないので、隣近所との日常的な交流はないが、近隣の畑作農家から農産物をもたらったり、散歩の機会を利用して、住民と会話を楽しんでいる。町内会にも入っており、少しずつ交流を広げるよう努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“その人らしく、地域の中で” 過ごせることをうたった、事業所独自の理念を掲げて、日々取り組んでいる。	○	事業所理念は、ともすると抽象的になりがちなので、今後は、さらに具体化した理念を職員一同で話し合うような機会を設けることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しいユニットでは、事業所独自の理念の他に、ユニット理念を作っている。	○	作成した理念は、掲示するだけでなく、機会あるごとに復唱するなどして、理念が実践に伴ったものとなるよう取り組むことを期待する。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への参加や、運営推進会議を通して、地域との交流を広げている。ボランティアも多数来訪している。近所の農家との交流にも努めている。駅の清掃ボランティアも実践している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は、定期的な運営推進会議の開催はできなかったが、開催時には、利用者・家族も参加している。運営推進会議の重要性は認識しており、近隣地域との交流のためにも、継続して開催する方向で取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営母体が、七飯町社会福祉協議会であり、町との連携も常に行っている。	○	運営母体と「町」の連携の下、事業所の運営者は2～3年で交代としている。組織的にはやむを得ないことではあるが、運営者は「認知症」に対する事前研修に取り組むなどし、今以上に運営者・管理者・職員一体となった運営に努めるよう期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に3～4回、家族に報告をしている。しかし、職員の異動に伴い、滞ることもある。	○	現在、担当者も決まっており、今後は、定期的な報告が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪の折りに、職員は積極的に話しかけるなどして、家族が意見や不満を表せるように心がけている。また、2階玄関脇に「ご意見箱」を設置するなどして、家族の意見を積極的に反映させるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動による利用者への影響を十分理解しており、利用者との馴染みの関係を大切にしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町内外の研修に参加している。研修報告は、月に1回の全体会議を通して行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道連絡協議会のブロック会議を通して、同業者と交流している。7月には、七飯町にある5事業所合同の運営推進会議を初めて開催する予定である。今後も、より一層交流を深め、サービスの質の向上をめざした取り組みを期待する。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族・利用者も交えて何回か検討を重ねた後で、利用を開始している。利用開始後も、利用者の状態にきめ細やかに対応するため、1ヶ月・3ヶ月とモニタリングし、工夫しながらサービスを行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者との会話から学ぶことも多く、積極的に利用者とは接するよう心がけている。利用者の言葉を聞き逃すことなく大切にしており、一緒に過ごしながら共に学び支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	“その人らしく過ごしていただきたい”という「基本理念」の下、一人ひとりの思いや意向をくみながら、日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の朝・夕の申し送りや毎月の全体会議の中で、利用者一人ひとりが日々安心して暮らせるよう話し合い、また、家族との話し合いのもと、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用開始時は1ヶ月後にモニタリングし、その後は、介護計画の見直しを3ヶ月ごとに行っている。家族の意向や状況の変化により、随時見直しを行い、きめ細かに作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望を取り入れ、外出・受診対応など、様々に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医の受診を勧めている。家族が付き添えない時には、利用者の受診を支える速やかな体制を整えており、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は、重度化した利用者がいないので、具体化はしていない。	○	今後は、利用者の重度化も考慮し、ターミナルケアについて取り組むことを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者に穏やかに優しく対応しており、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性と体調に合わせ、その人らしい生活が送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事の他に、誕生会を設けるなど、楽しい食事になるよう工夫している。食事の準備や後片付けなど、利用者に負担のないように気遣いながら、一緒に行っている。外出の機会を多く持ち、温泉で利用者が弁当を楽しむなど、様々な支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、日曜日を除いて設けている。週に2～3回程度の入浴を勧め、支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の食事前後の手伝いや、ハーモニカ・書道・華道・絵手紙などの、ボランティア講師による楽しみ事がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くには農家の畑があり、散歩したり住民と会話を楽しんだりしている。利用者を車に乗せ、連れだって買い物に出かけるなど、気晴らしの支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には元々鍵を設置していない。日中は、玄関に鍵はかけていない。	○	利用者の中には、就寝時に鍵をかけないと安心しないという場合もあるので、居室に鍵を希望する利用者への今後の配慮を期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と一緒に、年2回、昼間・夜間想定 の避難訓練を行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については、1,500ccを基準として、個々に極端な偏りがなく一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力・習慣に応じた支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、広くゆったりとしており、明るく清潔である。寒冷地ということもあり、冬は床暖になっており、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、布団・タンスなど、本人の馴染みのものがあり、居心地良く過ごせるようになっている。		

※  は、重点項目。